しあわせ

No.131

編集・発行：社会福祉法人西宮市社会福祉協議会
〒662-0913　西宮市染殿町８－17
西宮市総合福祉センター内
TEL:0798（34）3363　FAX:0798（35）1132
http://www.n-shakyo.jp

一人ひとりが自分らしく暮らせるまちへ ノーマライゼーションのまちづくりへの決意を新たに

1月25日（土）西宮市民会館「アミティホール」にて、西宮市、西宮市社会福祉協議会（市社協）の主催による**「ノーマライゼーション＆支援費フォーラムｉｎ西宮」**が開催されました。

当日は、１２００名を超える参加者となり、障害当事者の方、障害福祉関係者はもとより社協支部・分区で活動をすすめる方々や多くの市民でホールは満席となりました。また、西宮市授産活動振興委員会（小規模作業所や授産施設等福祉施設・機関のネットワーク）により自主製品の展示販売や温かい昼食の販売もあり、ホール周辺もたいへんな賑わいとなりました。

※ノーマライゼーションとは…　「誰もが＝障害のある人が障害のない人と同等に＝市民として、その人らしく生活し活動する社会の実現」

障害福祉の大改革「支援費制度」を目前にして、フォーラムを開催

いよいよ、２００３年４月から障害福祉の新しい制度「支援費制度」がスタートします。「自分の暮らしは、自分で考え、自分で決める」支援費制度は、ノーマライゼーションの理念を実現していくための大切な制度です。支援費制度を生かし、誰もが安心して暮らせるように、みんなが共に支え合うまちづくりが求められています。

市社協では、西宮市から「障害者生活支援事業」を受託し、障害者生活相談・支援センター「のまネット西宮」を設置、「支援費制度セミナー」等を開催。当事者、家族、福祉関係者など多くの方々とともに「支援費制度」について考える機会を作ってきました。また「誰もが安心して暮らせるまちづくり」に向けて、障害のある方の地域生活の視点から、地域で活動を進めている方々とともに考える機会として「ノーマライゼーション・フォーラム」を毎年開催してきました。そして、支援費制度を目前にした今年度は、「ノーマライゼーション＆支援費フォーラムｉｎ西宮」として西宮市と共催で大規模なフォーラムとなりました。

この西宮市こそが、粛々（しゅくしゅく）とノーマライゼーションの実態をつくりあげていく！

山田市長、秋山市社協理事長の挨拶によりフォーラムがスタート。

日本の障害福祉の第一人者である北野教授による基調講演は、「ノーマライゼーションとは、全ての市民が共に生きるために、お互いに分かり合い、分かち合うこと」とし、西宮の具体的活動について自らの関わりから実感を込めて述べられ、これまで支援し続けてきた事実と実態こそが日本に誇るノーマライゼーションの原点だと紹介されました。

そして、**「今後もこの西宮市において重い障害を持っている市民と共に分かり合い、分かち合っていくしくみを粛々とつくって欲しい、私も一緒につくりあげていきたい」**と結ばれました。

ノーマライゼーションの実現に向けてこの改革の目標は変わらない

特別講演は、厚生労働省社会援護局障害保健福祉部企画課の足利聖治課長の予定でしたが、当日、公務の都合で同課の大塚晃専門官が代わって行われました。

大塚氏からは、国の準備状況が述べられ、支援費制度は市町村が中心になって運用していく制度で、利用者である障害者自身がサービスの利用を決定すること、そのために情報提供やケアマネジメントを提供する相談支援機能が必要であることが強調されました。そして、移行間近のこの時期にホームヘルプ事業の「補助金支給額の限度案」や「相談支援事業の一般財源化」等、後退につながるような方針が国から唐突に提示され、改革の先行きに大きな不安を与えたことに触れ、財源問題など大きな課題をふまえつつ障害当事者の声とくいちがっていくことのないよう、再度改革を進めていきたい。**今後も障害のある方々が地域で普通に生活できることを目指すという目標は変わらない。**ノーマライゼーションのまちづくりを進めてくださいと話されました。

午後は、大阪大学大学院の大熊由紀子教授がコーディネーターとしてシンポジウムをすすめられました。

小川氏は、新制度準備室として先駆的に取り組まれてきた西宮市における支援費制度の構築状況について報告されました。

玉木氏は、障害当事者の立場から、当事者は「地域で生きていく自信を持つ！」、市行政や地域住民は「一緒にみんなの地域生活を守っていく」という理念を崩さない、政府は「ノーマライゼーションの社会は国の責任で築く」という立場を明確にするべきだという説得力のある話をされました。

大和氏は、重度障害者通所施設「青葉園」を運営する立場から、どんなに障害が重くても「主体の尊厳」の大切さと、それに呼応して進められてきた地域福祉（支部・分区）活動を報告し、誰でもが自分らしく暮らせるまちづくりへの展望と課題を示されました。

上田氏は、「すすめるネット」（市の障害福祉の推進を目指す当事者、親の会、市内の障害福祉関連の施設、機関等の集まり）の立場から、当事者、事業者、関係者の意思として西宮市がノーマライゼーションの実践をすすめていく確認がされました。

西宮での障害福祉の各分野の「代表」という立場からの発表に対し、会場からも多くの質問やご意見、ご感想が寄せられましたので、いくつかご紹介します。

「支援費制度を実施するに際しての目的・意義等を聞き、障害者にとってもすばらしい制度であることがわかりました。」

「西宮に住んでいながら西宮のことをあまり知らなかったと感じました。障害者に対する福祉をしっかり支えていこうとする支援者の思いが伝わってきたように思います。」

「支援費制度の実施状態をみんなで注視し、より良いものに作り上げていかねばなりません。全ては人です。作るのも育てるのも！地域の力を信じたいと思います。」

北野教授、大塚専門官から西宮市への応援の発言をいただき、**「わがまち西宮は、ノーマライゼーションのまちづくりを前向きに建設的に進めていく」**という決意によりシンポジウムを締めくくりました。

最後に、北村市健康福祉局長の力強い挨拶で終了。

わがまちの今後に大きな意味をもつ、熱気に満ちたフォーラムでした。

みんなこのまちで自分らしく暮らしていく、みんなで支えていく、わがまちは揺らがない！

「ノーマライゼーション＆支援費フォーラム in 西宮」

【基調講演】「ノーマライゼーションは今」
桃山学院大学教授　北野　誠一

【特別講演】「支援費制度のこれから」
厚生労働省社会援護局障害保健福祉部企画課
専門官　大塚　晃

【シンポジウム】
「ノーマライゼーションと支援費制度」

●コーディネーター
大阪大学大学院教授　大熊由紀子

●助　言　者
桃山学院大学教授　北野　誠一
厚生労働省社会援護局
障害保健福祉部企画課専門官　大塚　晃

●シンポジスト
・西宮市障害者生活支援事業
「ピアサポート・西宮」　玉木　幸則
・「西宮のしょうがい福祉を
すすめるネットワーク」世話人　上田　晴男
・西宮市障害新制度準備室長　小川美智子
・西宮市社会福祉協議会常務理事　大和　治文

社協会員を募集しています

社協会員って何ですか？

「社協会員」とは、社会福祉に理解と関心を持ち、会費を納入して社会福祉協議会の活動を支えてくださる方です。

この会員会費制度は平成９年に発足し、今年で６年目になり年々会員数は増加しています。この間、皆様の会費は地域福祉活動の大切な財源として使われました。

今後も、地域福祉活動をより一層充実するためにも、皆様のご協力が必要となりますので、ご加入の程よろしくお願いいたします。

社協会員になりたいんだけど…

会員の募集は、支部・分区の役員の方々のご協力を得て、各地域に応じた方法で行っています。

お住まいの地区での加入方法がご不明なときには、市社協事務局までお問い合わせください。

ありがとうございました！

平成14年度加入実績（H15.1末）

個人会員	3,134名	1,923,000円
団体会員	240団体	1,860,000円
賛助会員	17名	26,000円
合　計		3,809,000円

《会員の種類及び会費》

区　分		会費(年間：一口)
個人会員	市内に居住されている方	５００円
団体会員	市内の施設、団体及び事業所	５,０００円
賛助会員	①市外に居住されている方	５００円
	②市外の施設、団体及び事業所	５,０００円

＝お問い合わせ先＝
総務課
☎（０７９８）３７・００１０
FAX ３５・５５００

障害者生活相談・支援センター
『のまネット西宮』

生活上のご相談や、支援費制度の手続き、サービスの情報なども、お気軽にご相談ください。

【場所】総合福祉センター１階
（染殿町 ８－17）
☎（０７９８）３７・１３００
FAX（０７９８）３４・５８５８
【開業日】木曜日以外の毎日
９時～１７時
火・金曜日は20時30分まで
（祝祭日・センター臨時休館日は休み）